



第18-40号

2018年7月27日

## 向ヶ丘遊園跡地利用に関する方向性について

小田急電鉄株式会社（本社：東京都新宿区 社長：星野 晃司）では、2002年3月に閉園した向ヶ丘遊園跡地（川崎市多摩区）利用に関する方向性がまとまったことから、今後、2004年11月に川崎市と締結した「向ヶ丘遊園跡地に関する基本合意書」も踏まえ、川崎市等の関係機関と協議しながら、跡地利用計画の具体化を図ってまいります。

向ヶ丘遊園跡地利用に関する方向性の概要は次のとおりです。

### 記

1. 所在地 神奈川県川崎市多摩区长尾2-8-1ほか

2. 敷地面積 約21万8千㎡

3. 跡地利用に関する方向性

#### （1）目的

向ヶ丘遊園から引き継がれる豊かな自然環境を活かして「人が集い楽しむ場」としての機能を再整備することで、生田緑地の一部として「憩い」や「賑わい」を創出し、地域全体の価値向上への寄与を目指します。

#### （2）目指す役割

- ①「自然、文化・芸術、教育」といった既に地域に存在する豊かな資産をつなぐハブ機能としての役割を果たします。
- ②身近なレジャーやちょっとした非日常を感じられる特別な空間や体験を創出することにより、地域に新たな付加価値の提供を図ります。

4. その他

跡地利用計画については、関係行政機関等との協議が整い、具体的な内容が確定した段階で改めて公表いたします。

以上

<参考1>

- 「向ヶ丘遊園跡地に関する基本合意書」の概要（川崎市と2004年11月に締結）
  1. 環境共生を前提に、多摩丘陵の緑豊かな自然を次世代に残すため、川崎市および当社は一致協力して跡地の活用を推進する。
  2. 跡地の利用に際して、当社は緑を保全し、良好なまちづくりに寄与する計画とする。川崎市は緑の保全にあたり必要な支援を行う。

<参考2>

○「向ヶ丘遊園」について

向ヶ丘遊園は、1927年の開園以来、75年間という長期にわたり営業いたしましたが、2002年3月末に閉園しました。同園は、多摩丘陵の緑豊かな自然を生かした「花と緑の遊園地」として、川崎市民をはじめとする首都圏の方々に親しまれるとともに、自然豊かな「生田緑地」の一端を担っていました。

1. 概要

- (1) 所在地：神奈川県川崎市多摩区長尾2-8-1他
- (2) 敷地面積：約29万㎡（閉園時）

2. 沿革

- 1927年4月 小田急線開通と同時に向ヶ丘遊園地開園（入園無料）
- 1952年4月 向ヶ丘遊園を有料遊園地として開業
- 1958年5月 ばら苑がオープン
- 2002年3月 閉園

# 向ヶ丘遊園跡地利用の目的と目指す役割

向ヶ丘遊園跡地に関する基本合意書（2004年11月 川崎市と締結）

## 「遊園 = 人が集い楽しむ場」の再整備

＜ 向ヶ丘遊園地から引き継がれる豊かな自然環境の活用 ＞

豊かな地域資産  
(自然、文化・芸術、教育)  
をつなぐ **ハブ機能** の創出



身近なレジャーや  
**ちょっとした非日常** を  
感じられる特別な空間や体験の創出

生田緑地の一部として求められる「憩い」や「賑わい」の創出

地域全体の価値向上への寄与